

## 丈夫な節を作れる人に

校長 新家子 直之

白い息を吐きながら、夢中でなわとびをしている子どもたちを、今は枝だけになって見えるケヤキの木が応援しています。一見、生命を感じさせないその木の中にも、来るべき季節に向けて芽吹く営みが始まっていることでしょう。

2月になり、学校も少しずつ次の学年、年度への準備を始める頃になってきました。



さて、今日2月3日は節分です。節分は季節の分かれ目を意味しますが、ここに使われている『節』について少し考えてみたいと思います。

節といえば、私たちにはまず植物の「竹」が思い浮かびます。ご存知の通り、竹は成長が早く、真竹（マダケ）、孟宗竹（モウソウチク）などは一日で1mも伸びることが観察されているそうです。竹は成長に使う材料を最小限にして、しかも早く成長させるために中を空洞にしており、幹の太さも他の樹木に比べると細く伸びていきます。

しかし、その強度は高く、例えば両側から引っ張りに耐える力は鉄筋の2～3倍もあるそうです。その強さの秘密が「節」であり、竹はこれによって背が高くても強風や雪の重みの力に耐えられるようになっていきます。竹は折れにくく、しなやかなのです。

私たちはよく「節目」という言葉を使います。何かの変わり目という意味で使うことが多いと思うのですが、私は、子どもたちには何かが変わるというだけでなく、その節目が竹のように自分を強くする機会になればいいと思っています。

例えば『失敗』の経験がその機会の一つです。なぜなら、失敗することで「次はどうしたら成功するだろう」と原因を真剣に考える姿勢を身につけたり、「挑戦し続ける苦しさがあって、成功した時の大きな喜びがある」という努力の意味を学んだりすることができるからです。

私たち大人は、子どもたちが可哀そうだと思って、失敗しないように先回りして障害を取り除いたり、一人でさせずに初めから手を貸してしまったりすることがありがちです。それを子どものためと勘違いしてしまっていることがあります。

その時は辛く、苦しくとも、自分で乗り越えて初めて身につけられる力がきっとあると思います。本当にその子のことを考えて、どうしたらよいか判断することがいいですね。（もちろん、させてはいけない失敗もあると思います。）

子どもが壁に突き当たっている時、それはその子が人としての強い『節』を作っている時なのだと思方を変え、時には黙って見守ったり、時にはヒントを少しだけ出してあげたりと支援の仕方を考えてみてはどうでしょうか。

節分に豆を撒き、鬼を追い払いますが、あの鬼は自分の心の弱さであるともいいます。子どもたちが自分の心の中の鬼を追い払い、強い気持ちで目標に向かって挑戦し続けられる「折れにくく、しなやかな」強い節が作れるように、これからも学校と家庭・地域とで応援していきましょう。

